

会派調査（研修）報告書

令和 6年 10月 28日

胎内市議会議長
八幡 元弘 様

(報告者) 会派名 公明党

代表者名 渡辺 栄 六

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和 6年 10月 7日 至 令和 6年 10月 9日 2泊3日(3日間)	調査・研修 場 所	北海道富良野市 北海道占冠村 北海道鹿追町
調査・研修 事 項	富良野市 占冠村 鹿追町	インバウンドの取り組みについて 野生鳥獣対策について 幼小中高一貫教育の取り組みについて	
調査・研修 出 席 者	渡辺栄六 (政和会) 天木義人 小野徳重 森本将志 坂上隆夫		
相 手 方 (対応者)	富良野市 : 市議会議長 渋谷正文 商工観光課係長 笹田武志 占冠村 : 村議会議長 児玉真澄 猟区主任 浦田 剛 鹿追町 : 町議会議長 上嶋和志 教育長 渡辺雅人 学校教育課主幹 天野健治	商工観光課長 石出訓義 議会事務局長 今井顕一 農林課長 鈴木智弘 議会事務局主査 田中健士郎 副町長 松本新吾 学校教育課長 宇井直樹 議会事務局主任 宮沢航太	

調査の結果または概要

【富良野市】 人口は約 2 万人であり、夏は花や田園風景、冬はスキーを中心とした観光で年間約 200 万人が訪れ、外国人宿泊延べ人数は 25 万泊となっている。また、「観光や旅行に行ってみたい」地域ランキング全国 7 位になっており、観光消費経済波及効果は約 440 億円を推計している。

【占冠村】 約 20 年前にエゾシカによる牧草被害が増加。また、全道的な個体数増加に呼応し、平成 22 年度に「占冠村エゾシカ対策協議会」設置を契機に村独自の取り組みを開始。対策を進める基盤として、野生鳥獣担当職員と野生鳥獣処理加工施設が大きな役割を担ってきた。エゾシカ肉等の有効活用を推進するため、平成 24 年 3 月にジビエ工房「森の恵み」を設置し、年間約 300 頭の野生鳥獣の解体や、食肉加工を行っている。

【鹿追町】 幼児教育と学校教育の連携や、小学校・中学校・高等学校の連携による 12 年間を見通した一貫教育により、興味・好奇心を学習エンジンとする主体的な学習者の育成を目指している。また、昭和 60 年にカナダ・アルバータ州との姉妹都市提携し、平成 9 年 1 月より鹿追高等学校派遣事業で 1 年生全員がカナダへ短期留学を開始しており、これまで派遣した高校生は 1,716 名になる。

調査の所見・感想

【富良野市】 中国からの誘客の取り組みでは、現金決済がネックとなっている。中国では電子決済が当たり前で旅行先でスムーズに行かないという課題がある。これらの課題解決に向け、マルチ QR 決済システムの導入することにより国内外のユーザーへ非接触での決済対応を実現している。今後の課題として繁閑差を小さく（オールシーズン化）し、通年通して誘客できる体制が必要と考える。

【占冠村】 野生鳥獣専門員を配置し、捕獲事業の企画調整等の取り組みにより、有効活用と安全で安心な態勢で持続的に捕獲を進めている。しかしながらシカの数、農業被害はともに漸増の気配であり、いっそうの捕獲努力が望まれる。

【鹿追町】 小さな町であるが、こども園と高校を加えると 9 つもの学校がある。各学校では地域に根差した町づくりを目指している。子供たちが大きくなった時に「住みやすい」と感じられるような町づくりは大人の責務である。鹿追町の課題や将来を考えた教育について、地域の皆さんの声を大切にした教育の推進が大切である。